

36 小児腹膜透析導入プログラムの検討

—小児科病棟との連携を試みて—

長野赤十字病院 透析センター

村山美香 黒岩晃代 坂西佐智世 畔上信子

I はじめに

当院での小児腹膜透析患児は、他病院で導入され、教育目的のために小児科病棟に入院となる。透析センターでは患児および家族に対してカテーテルケアを中心に指導を行っている。しかし、小児科病棟での指導の進行状況が把握出来ず、患者家族が理解できないまま退院となるケースがあった。そこで、今回 12 歳女兒の入院を機に、小児科病棟と透析センターで統一した指導が必要と考え、本研究に取り組んだ。

II 研究目的

1. 新規作成した小児 PD 教育スケジュール、各チェックリスト (2 種類)、CAPD パンプレットが効果的に活用できたか評価する。
2. 小児 PD 患者と関わる中で、小児科スタッフが不安に感じた内容を明確化する。

III 用語の定義

小児腹膜透析導入プログラム：小児 PD 教育スケジュールに沿って、病棟看護師と透析看護師が分担し、患児に対してカテーテルケアチェックリスト、小児 PD 退院チェックリストと CAPD パンプレットを使用し指導すること。

IV 研究方法

1. 対象および調査方法
 - 1) 小児科病棟のプライマリー看護師に、当プログラムを使用してもらうように依頼した。
 - 2) 看護師 50 名 (一般病床看護師 17 名、NIC 看護師 33 名を含む) に対し、プログラムの内容と、PD に対する不安について自己記入法による質問紙調査を行った。
2. 調査期間：平成 21 年 1 月～3 月

※別冊請求先：村山 美香 〒380-8582 長野市若里 5-22-1
長野赤十字病院 透析センター

3. 倫理的配慮

小児科病棟スタッフには、研究の目的と方法、調査結果は目的以外には使用しないこと、個人は特定されないことを紙面と口頭で説明した。質問紙を受領することにより同意を得たとした。

V 結果

<経過>

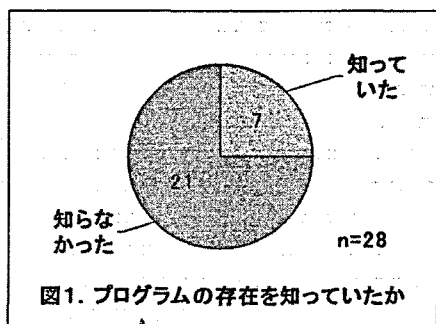
患児の転院前に、透析看護師が病棟看護師に CAPD の基礎についての勉強会をおこなった。小児 PD 教育スケジュール (以下スケジュールとする) とカテーテルケアチェックリストを作成した。スケジュールは T 社のテキスト内容に沿っており、指導日時を記入できるようにした。入院当日に病棟看護師 (プライマリーナース) と患児にスケジュールとカテーテルケアチェックリストを手渡し、不備な点があれば教えて欲しいと伝えた。透析センターでは、従来通りカテーテルケアを患児に指導した。患児に対してテキスト内容を質問し分からないことを補足していった。出口部の観察時には、チェックリストに沿って病棟看護師にもカテーテルケアを見学してもらった。機械の操作方法は業者が中心となり、APD 操作手順チェックリストを用いて、患児と父親、病棟看護師に指導した。退院前に、小児 PD 退院チェックリストと、CAPD パンプレットを作成し、病棟看護師 (プライマリーナース) に使用方法を説明した。退院前日に透析看護師が、患児と父親、小学校の担任と保健師に対して、CAPD パンプレットを用いて退院指導を行った。

小児 PD 退院チェックリストを使用しながら、病棟看護師と透析看護師で必要物品の確認を行った。(入院期間 10 日間)

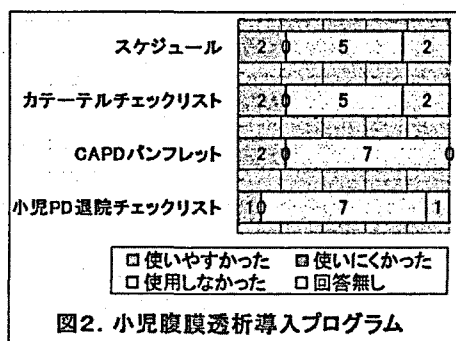
<質問紙調査結果>

回収率 58%、有効回答率 96%

有効回答 28 名中、プログラムの存在を知っていた看護師は 7 名、知らなかった看護師は 21 名だった(図 1)。



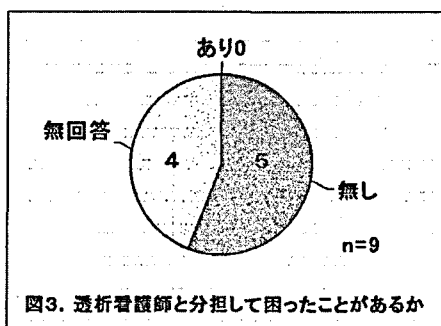
有効回答 28 名中、患児に関わった看護師は 9 名だった。プログラムが、使いにくかったという回答はなかった。2 名の看護師は使いやすくと答えていた。しかし、実際にプログラムを使用しなかったという回答が多くあった(図 2)。自由回答では、CAPD パンフレットの文章が小児用ではないという意見があった。



自由回答

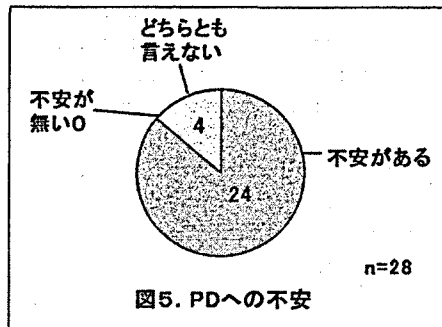
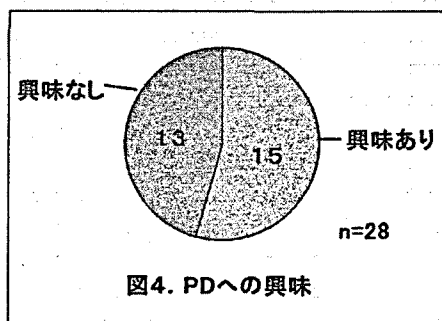
- ・スケジュールにそって読み合わせをしたが、患児がどのくらい理解できたか把握できて良い。
- ・他の入院患者をみながらなのでマンツーマンで指導はできない。
- ・文章の内容が小児用ではない。

患児に関わった 9 名中、5 名の看護師は、透析看護師と業務分担して困ったことがないと答えた(図 3)。



有効回答 28 名中、PD に対して興味があると答えた看護師は、15 名だった(図 4)。

次回、PD 患児が来たときに、24 名の看護師は不安があると答えた(図 5)。

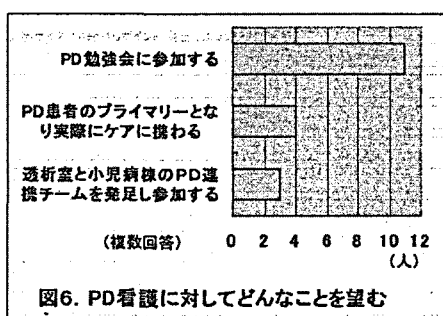


PD に対する不安の具体的内容としては、

- ・症例が少なく指導に自信が持てない 5 名
- ・トラブル時の対応 4 名
- ・PD カテーテルケアの手技、観察 3 名
- ・PD 経験が全くないため、わからない 2 名
- ・機械の操作 1 名
- ・他の患児をみながらマンツーマンで指導ができない 1 名

PD 看護に対して望んでいることは

PD 勉強会に参加すると答えた看護師が 11 名いた(図 6)。



VI 考察

2名の看護師はプログラムを活用できていた。しかし、病棟看護師全体には浸透していなかった。その理由としては病棟ではプライマリー制をとっており、日勤で関われる看護師が少数に限られてしまうためと考えられる。また、入院期間が短いためと考えられる。

病棟看護師より、CAPDパンフレットの文章が小児用でないという意見がきかれた。小児にわかりやすい言葉で興味を示す内容に作成し直す必要があると考える。

有効回答数の半数の看護師がPDに興味があると答えていたが、PDに対して8割の看護師が不安を感じていた。その要因として、症例数が少ないことが考えられる。また、CAPDの原理やバック交換など専門的知識が必要であり、出口部の異常時の対応、生活指導は、PD経験がないと判断が難しいためと考える。

VII 結論

プライマリー看護師2名は効果的に活用できた。しかし、病棟全体には浸透していなかった。病棟看護師は小児PDの経験が少なく、PD看護の専門分野において自信が持てず、不安を感じていることがわかった。

VIII おわりに

今後、症例を重ねプログラムの再評価を行い、同時に適宜、勉強会をしていく必要がある。

(参考文献)

- 1) 杉山晴子,他:新潟大学におけるPD看護師の役割, 腎と透析 63 別冊腹膜透析 2007:255-257, 2007
- 2) 大滝容子,他:病棟、外来間のPD指導の統一と連携に向けて—SMAP法

の症例を通して—,腎と透析 57 別冊腹膜透析 2004: 158-160,2004

3) 上田さとみ:東海大学医学部付属病院における看護師教育の現状と課題,腎と透析 57 別冊腹膜透析 2004: 56-59,2004

4) 石浦光世:子どもの成長・発達に特徴的な認知や発達課題をとらえたかかわり,小児看護, p1793 第30 巻第 13 号 2007 年